

第13期事業報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

1. 事業の成果

第13期も、多数の会員や団体の協力のもと、平成20年度の設立時に掲げた趣旨・目的に沿って種々の事業を企画実施した。国際こども・せいねん劇場みやざき／透明体育館きらきらの管理委託業務の2期目となりコロナ禍ではあったが、劇場事業を中心に新規の事業を多く行うことができた。

※太字は新規展開事業

【県内事業】

📌📌 主な事業

- ・ **令和元年度文化芸術による子供育成総合事業—コミュニケーション能力向上事業—〈NPO法人等提案型〉**／
実施校：6校 (内県外2校) 《受託事業》 (本庄小、明道小、吉之元小、内海小、福岡立岩小、東京東栗原小)
- ・ 令和元年度文化芸術による子供育成総合事業文化芸術による子供育成総合事業—芸術家派遣事業—〈学校申請型〉／
実施校：16校 (内新規校：櫛中、有水小、明星視覚支援、梅北小、上新田中、方財小) 《コーディネート事業》
- ・ 霧島アートの森「つくるスポーツ／するアート展」連携企画、高鍋東中学校ワークショップ《協力事業》
- ・ 宮崎市スクールコンサート事業／宮崎市立木花中学校《受託事業》
- ・ 宮崎県教職員互助会スクールコンサート事業／加久藤小学校、三松中学校《受託事業》
- ・ とともに学ぶ×おどる×アートする「芸術の学校 vol.1.4」 - 「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」に向けて《コーディネート事業》
- ・ **宮崎市学校法人立宮崎幼稚園協会「らまつーポスのオンライン教材2020」** 《協力事業》
- ・ NPO法人みやざき男女共同参画推進機構「令和2年度パープルリボンキャンペーン (映像出演)」《協力事業》
- ・ 宮崎県女子体育連盟「じゃがじゃがサマーセミナー2020」《コーディネート事業》
- ・ **アミュプラザみやざき開業記念『つくろう。みやざき みんなのうた』** ステージ《協力事業》

【県外事業】

📌📌 主な事業(県外)

- ・ 「らまつーポス×いわきアリオス おうちでアリオス動画コンテンツ作製・配信」《受託事業》
- ・ いわき芸術文化交流館アリオス「令和元年度おでかけアリオス」／全1校《受託事業》
- ・ 福島大学うつくしまふくしま未来センター「身体表現ワークショップ」／全2校《コーディネート事業》
- ・ **令和元年度文化芸術による子供育成総合事業—コミュニケーション能力向上事業—〈学校申請型〉**／
実施校：向日市立第3向陽小学校《受託事業》
- ・ 令和元年度文化芸術による子供育成総合事業文化芸術による子供育成総合事業—芸術家派遣事業—〈学校申請型〉／実施校：7校
(お茶の水女子大学附属中、いわき市立小学校4校、北広島市広葉中学校、小国町立小国小学校、他)《コーディネート事業》
- ・ オリンピック・パラリンピック教育の推進事業 ダンスワークショップ／都内1校《コーディネート事業》

📌📌 主な事業(海外)

- ・ 文部科学省「日本型教育の海外展開推進事業 (EDU-Port ニッポン)」《受託事業》
 - EDU-Port ニッポン トピックセミナー (体育教育) Zoom オンライン講演 (講演者：豊福彬文 演題：「表現運動」が「誰一人取り残さない世界」を実現する?)
 - EDU-Port シンポジウム～5年間の成果と日本型教育の海外展開のと未来を探る～活動紹介 (シンポジスト：豊福彬文、報告：日本型ダンス教育「表現運動・創作ダンス」の海外輸出(ラオス、他))
- ・ 日本人学校オンラインワークショップ《自主事業》／実施校：2校 (上海日本人学校虹橋校、プカレスト日本人学校)
- ・ Children Creative Movement Forum Zoom オンライン講演 (講演者：高橋るみ子、らまつーポス) 《協力事業》

【劇場事業】

🎭🎭 主な事業

(ダンス公演) 「ようこそ Month 1 CandY」《自主事業》 ※企業メセナ協議会かるふぁん! 助成認定制度採択企画

- ・ 令和2年度事業文化芸術活動の継続支援事業 トライアル公演「新しい月一公演」×with コロナ 出演: んまつーポス、かえるP
- ・ 一般社団法人 namstrops プレゼンツ「今、BEAR CAME ALONG」《協力事業》
- ・ 豊福彬文プレゼンツ「年末年始12日間連続ダンス企画」《協力事業》
- ・ 坂元美玖プレゼンツ「はつはつ初めて!!」《協力事業》
- ・ キッズ☆スター自主公演「この世界には3人組があふれてる」《協力事業》

(展覧会) ※ 令和2年度県民芸術祭補助事業

- ・ プレ「コンテンポラリーを展示する〜樺島優子の日〜FLOW一つぎはぎ世界の棧橋を渡る〜」
- ・ 「こんてんばらりーをてんじする。」 before—コロナの作品と with コロナの作品から未来を考える展覧会《自主事業》

(ワークショップ・トレーニング・研修)

- ・ 「こども Canトレ」全17回《自主事業》 ※ 子どもゆめ基金助成活動事業 (内3回)
- ・ 地域の子どもたちのアーティストックな居場所づくりプロジェクト「アート塾」こども version (全5回)、せいねん version (全7回)《自主事業》 ※ J-coin 基金 第2回公募事業
- ・ 地域文化倶楽部パイロット「アートoffice」(全2回)《自主事業》
- ・ 豊福彬文とトレーニングする「Canトレ」(週2回程度)《自主事業》 ※ 11月~2月は、児玉孝文プレゼンツ
- ・ 宮崎大学教育学部附属小学校 自主研修会「運動会に向けて」《協力事業》

(レジデンス)

- ・ 第1期若手芸術家支援事業「CandY レジデンスプログラム」参加者: 1名

🎭🎭 劇場事業実施における年間来場者(2020年4月1日~2021年3月31日)

約3335名(子ども: 2338名、大人997名)

※視察者

アーティスト: 10名 美術館・劇場関係者: 7名 大学関係者: 3名 行政: 4名 マスメディア: 1名

金融機関: 1名 非営利団体: 2名 その他: 8名

合計28名

【その他の事業】

(受賞)

- ・ 第14回キッズデザイン賞受賞「子ども(ポストコロナの主演)の思考回路を逆転させるアートプロジェクト SAKASA」

(学術研究)

- ・ 宮崎大学産学・地域連携センター第27回技術・研究発表交流会における取組事例発表/ポスター発表《学術研究事業》
- ・ 第72回舞踊学会 一般口頭発表《学術研究事業》

(メディア)

- ・ 4月16日 NHK 宮崎放送局 イブニング宮崎 「寝たまま M-kid' s エクササイズ」
- ・ 4月28日 ひなた新聞 「寝たまま M-kid' s エクササイズ」
- ・ 4月28日 福島民報新聞 「おうちでアリオス」
- ・ 4月29日 福島民友新聞 「おうちでアリオス」
- ・ 5月10日 NHK いわき支局 ニュース 「おうちでアリオス」
- ・ 5月25日 Alios paper 特別号 「いわき FC×んまつーポス×いわきアリオス」
- ・ 6月1日 福島民友新聞 「おうちでアリオス」
- ・ 7月28日 MRT ラジオ 「由宇月と一緒に行ってみんよう♪」
- ・ 10月3日 MRT 宮崎放送 「つくろう。MY AMU」
- ・ 10月4日 MRT ラジオ 「サンデーラジオ大学」)
- ・ 10月6日 MRT ニュース 「有水小学校 んまつーポス身体表現ワークショップ」
- ・ 2月1日 #13 宮崎ちゃわラジ「福岡と岐阜出身の移住者2人が見つけた宮崎のカルチャーをゆるく発信するポッドキャスト」
- ・ 2月8日 #14 宮崎ちゃわラジ「福岡と岐阜出身の移住者2人が見つけた宮崎のカルチャーをゆるく発信するポッドキャスト」
- ・ 2月15日 #15 宮崎ちゃわラジ「福岡と岐阜出身の移住者2人が見つけた宮崎のカルチャーをゆるく発信するポッドキャスト」

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

フォトブック（事務所保管）及び、本法人ホームページ参照

(2) その他の事業

その他の事業は実施なし。

3. 総括

第13期は、上半期はコロナ禍により事業の変更・中止・延期が相次ぎ事業実施が困難となり併せて資金繰りも難航した。しかしながら県民芸術祭補助事業や持続化給付金、家賃支援給付金（中小企業庁）や、継続支援事業（文化庁）、かるふあん（企業メセナ協議会）などにより、コロナ禍が落ち着き始めた中期ごろより延期となった事業の実施が可能となり資金繰りも安定した。後期に於いては、やむなく中止となった事業に変わって、感染症の対策を十分に取った新規の事業を展開することもでき全体を通して、前年と変わらない事業規模となり、地域に根ざした事業展開が実施できた。

第13期の特筆すべき事業として、前述したとおり、各種補助金や給付金、寄付金等によって、2期目となった透明体育館きらきら／国際こども・せいねん劇場みやぎきの管理運営業務の「劇場事業」において、「子どもCanトレ」や「アート塾」といった子どもたちのコロナ禍によるプログラムを開発・実施できたことが挙げられる。さらに、そうしたプログラムの参加した子どもたちの半数近くがリピーターとなっていることと、本法人が「県内事業」でコーディネートした事業に参加経験のある子どもたちが参加者しており、本法人の事業に横断的・連続的なつながりが出てきたことも事業実施の成果である。

また事業年度中期に、本法人の運営について「劇場事業」のあり方について、外部より「閉鎖的で単眼的」という指摘を間接的に受けたことにより、有識者（行政、専門の大学教員、学芸員、記者など）に参加いただき、法人設立より掲げている（非公式）アーティストが運営するアートNPO法人をより地域に根ざしたNPOとなるように組織改変会議を複数回行った。結果、事業の柱は現行のまま、組織体制や資金運用が外部より“見えやすい”“分かりやすい”ようになり（別紙組織図参照）、本法人が企画・運営・評価等への協力者（アドバイザーコミッティ）として、有識者に協力を仰ぐ組織体制を敷いた。こうした外部からの指摘に対して真摯に受け止められる組織運営を引き続き行い、二度とは立ち返れない子ども・青年時代に必須のやさしい人間体験“からだをひらき、こころをひらく”と子どもが楽しい大人のコンテンポラリーダンスを初めとしたアート体験の推進を図っていきたい。

現在、事業年度終盤の3月よりコロナ禍が悪化傾向にあり、再び次年度決定している事業の変更・中止・延期になる可能性があり、スケジュールや資金繰りが困難になると予想される。状況を見極めながら、今後も引き続き事業を安全に実施し社会に貢献できる体制を整えていきたい。